

【全体概要】

野菜の加工業務用需要が拡大していることから、富山県では加工業務用野菜として新たにほうれんそうとトマトを選定し、安定生産技術の確立に向けた取組みを展開している。

本取組みでは、ほうれんそうとトマトの機械化体系と安定生産技術を検討し、2年間の実証結果に基づき、栽培マニュアルを策定した。

新品種・新技術等の概要

●加工業務用ほうれんそう(露地栽培)

- (1)加工業務用需要に対応した品種の検討
(供試品種:「プログレス」、「クロノス」、「福兵衛」)
- (2)低コスト省力化のための機械化体系の検討
(供試機械:にんじん用うね立て同時は種機(写真1))



写真1 にんじん用うね立て同時は種機によるほうれんそうのは種作業

●加工業務用トマト(露地栽培)

- (1)加工適性及び収量性の高い品種の選定
(供試品種:「なつのしゅん」、「NDM736TM」)
- (2)低コスト省力化のための機械化体系の検討
(供試機械:汎用野菜移植機、ハンドプランタ(写真2))
- (3)生育促進技術(保温マルチ、べたがけ)の検討



写真2 汎用野菜移植機(左)とハンドプランタ(右)によるトマトのセル苗移植作業

加工業務用トマトの移植作業時間

半自動移植機による移植	20分/10a
ハンドプランタによる移植	137分/10a

上記の実証で使用した苗:セル成型苗(72穴セルトレイ)
慣行:ポリポット(直径9cm)苗の手植え(作業時間:330分/10a)

主な取組内容

【実証ほの設置】

- 加工業務用ほうれんそう及びトマトの機械化体系・安定生産技術の実証ほの設置(R2~3)

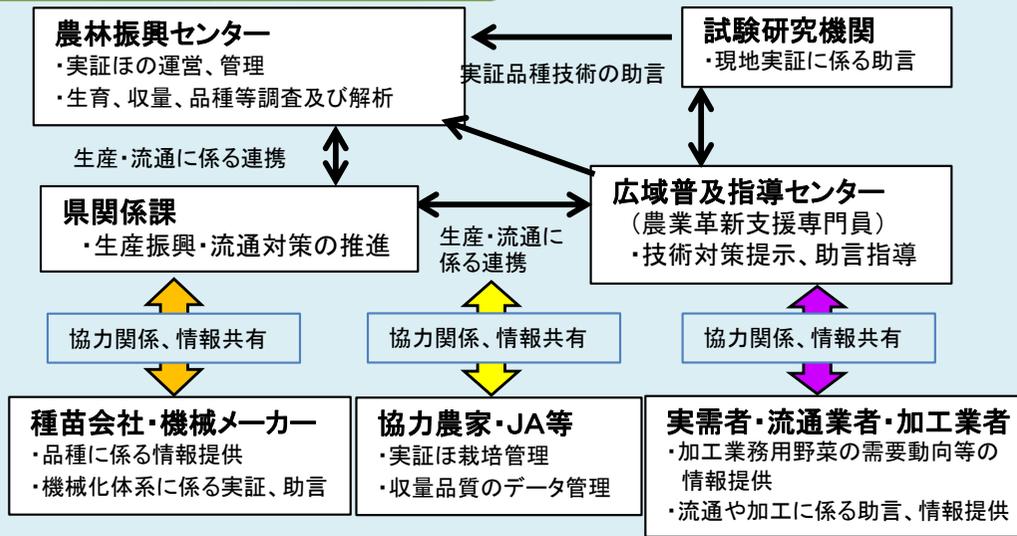
【検討会の開催等】

- 生産者や実需者を対象とした現地検討会の開催(R2~3)
- 実需者との意見交換会の開催、実需者へのサンプル提供とアンケート調査の実施(R2)
- 安定生産技術について、課題の整理と今後の対応方策を検討(R2~3)

【先進地視察の実施】

- 安定生産技術に係る県外先進地調査の実施(R2)

実施体制図



実績と今後の展開

【実績】

- 令和2~3年度の実証結果に基づき、加工業務用ほうれんそう及びトマトの栽培マニュアルを策定した。

【今後の展開】

- 両品目とも、栽培マニュアルを活用し、機械化体系と安定生産技術の導入普及を図る。
- ほうれんそうについては、県内の業務用需要(外食店、食材宅配業者等)での販路開拓を図りながら、当技術の導入推進を図る。
- トマトについては、収穫作業に多くの労力を要することから、農業支援サービスを活用し、作付け規模の拡大を図る。